

市立

いちかわ

自然博物館だより

令和6年(2024年)

8-9月号

(通巻 213号)

2024年度

あたりまえの風景に
あたりまえの生き物に
あたらしいときめきがある！



自然博物館収蔵写真

ヒグラシの羽化

夕方、長田谷津でヒグラシの幼虫を見つけたので、博物館の事務室の壁紙にとまらせて羽化を観察しました。

- P1 ☀ いきもの写真館
ヒグラシの羽化
- P2 / 3 ☀ 肌感覚の気象の記録
肌感覚の8月と9月
- P4 ☀ 花を透明にして観る
フジ
- P5 ☀ 長田谷津のとりたち
カワセミ

- P6 ☀ くすのきのあるバス通りから
今ある自然を大切に
- P6 ☀ 展示室 飼育生物の話題
冬に生まれたオオカマキリ
- P7 ☀ わたしの観察ノート
5～6月の記録
- P8 ☀ ご案内

博物館だよりはカラー版をホームページでご覧いただけます。





肌感覚の気象の記録



自然博物館では、日々の自然観察の記録を「自然観察週報」としてまとめ、web サイトで公開しています。自然観察週報には、週単位の気象の記録もあります。数値ではなく、自分たちが体験した気象を文字で書いた記録です。科学的とは言えませんが、生活実感には近い内容になっています。

肌感覚の8月

近年、8月は「猛暑」を越え「酷暑」の月になっています。「体温越え」「災害級」「危険な暑さ」といった言葉が飛び交い、熱中症警戒アラートが連日発令されます。

異常な暑さが続きました。ネット上では地球が壊れている、とのコメントも見かけます。海水温がどうの、偏西風がどうの、という説明よりも、そう言い切った方がスッキリするのは、気持ち的にわかります。ただ、科学ではないですね。(2023年8月3週)

最高気温が連日30℃を越え、35℃を越えた猛暑日もありました(船橋アメダス)。酷暑の中のオリンピックとして記憶されるのでしょうか。(2021年8月1週)

連日の酷暑でした。船橋アメダスでは最高気温35℃超えが4日あり、13日は37.1℃でした。ただ昆虫たちは元気で、その点は夏休みらしくなりました。(2020年8月2週)

酷暑の記述をさかのぼっていくと、行きついたのは2013年でした。

異常な猛暑が続きました。船橋アメダスでは11日に39.0℃、12日に35.9℃という最高気温を記録しました。(2013年8月2週)

それ以前の2011年8月2週には

猛暑のお盆でしたが、週末から前線が停滞し、

最高気温が25℃を下回る涼しい陽気になりました。夕立が少なく乾いていた地面も、強い雨が降って一息つきました。

との記述があります。ただ、2010年8月4週には

今年の夏(6月～8月)の日本の平均気温は過去最高(平年差1.64℃)を記録し、東日本も過去最高だったそうです。

との記述もあります。過去113年間で最も暑い夏だったそうです。ちなみに今年(2024年)の7月は、過去126年間で最も暑い7月だったそうです。

さらにさかのぼると、イメージ通りの8月の記述が現れます。

強い日差しは変わりませんが、立秋を迎えて朝晩涼しい空気が流れるようになりました。空にも秋らしい雲が現れました。(2004年8月2週)

立秋から日がたつにつれて、朝晩を中心に涼しくなってきました。日中も、日差しは強くても空気が乾燥していてしのぎやすいです。(2002年8月3週)

異常な暑さがあっても、記述には2024年の肌感覚からすると余裕があります。

猛烈な残暑が続きます。フェーン現象で33℃くらいまで気温が上がった日もありました。(2000年8月4週)

肌感覚の9月

8月が暑い分、近年は夏の終わりと秋の到来の記述が9月になっています。以前より、夏がひと月長くなっています。

お彼岸が間近にせまり、ようやく最高気温が30度を切りました。9月に入っても暑さが続いたので、梨の新高は大打撃だったようです。(2023年9月3週)

船橋アメダスでは最高気温が30℃に届く日がありませんでした。一気に秋になりました。(2021年9月1週)

猛暑が収まらず、連日、最高気温が30℃を越えました(船橋アメダス)。この暑さはいつまで・・・というのが気象番組の定番ネタでした。(2020年9月1週)

前週と一変して、最高気温が30℃を越す日がほとんどありませんでした。

ようやく夏が終わった、というのが実感でした。(2020年9月2週)

ようやく最高気温が30℃に達しない日が普通になりました。明け方は肌寒いくらいでした。(2018年9月2週)

9月は「二百十日」「二百二十日」にあたる月です。台風や大雨に関する記述も多くなります。

台風13号が関東・東海に接近し、千葉県内で記録的な大雨と被害が発生しました。市川市内でも8日は、強い雨が降りました。(2023年9月1週)

9月9日早朝に東京湾から千葉市付近に上陸した台風は、深刻な強風被害を県内各地にもたらしました。大町公園(長田谷津)も樹木の倒壊と枝葉の堆積で臨時休園を余儀なくされました。(2019年9月2週)

週のはじめに、台風が列島を縦断しました。市内でも猛烈な風が吹き荒れ、木が倒れ、停電も

発生しました。雨を伴わない強い南風で海水の飛沫が大量に降り注ぎ、草が枯れ木の葉が縮れ、窓ガラスや車は塩の粒でキラキラしました。(2018年9月4週)

10日は大雨になりました。2つの台風の影響で「線状降水帯」が形成され、同じ場所で雨が続き鬼怒川が決壊しました。市内でも避難勧告(河川、土砂災害)・避難指示(土砂災害)が発令され避難所が開設されました。行徳可動堰も全開しました。(2015年9月1週)

9月11日が二百二十日。その前の8日に台風が列島を横断しました。時間40ミ(船橋アメダス)の豪雨で、各所で冠水しました。(2010年9月1週)

13日の夜に激しい雷雨となりました。時間38ミ(船橋アメダス)で、8日に続き各所で冠水しました。その後、秋の空気が入ってぐっと涼しくなりました。(2010年9月2週)

暑さが収まり台風の襲来が増えることは、太平洋高気圧の勢力が衰えることと関連しています。春とは裏返しの不安定な天気ですが、海水温が高い分、春とは様子が異なります。

大雨の一方で、9月に渇水になった年もあります。

17日から10日間、雨が降っていません(船橋アメダス)。連休は天気恵まれ、行楽日和になりました。(2009年9月3週)

17日からの雨なし日は、28日まで12日間になりました。9月全体でも降雨があったのは5日だけでした。(2009年9月4週)

利根川水系で渇水対策本部が設置されました。真夏のような暑さとカラカラ天気が続きました。(2012年9月1週)

ようやく朝晩だけは涼しくなりました。寒いくらいの朝もありました。利根川水系では取水制限がはじまりましたが、日常生活に影響する段階ではありませんでした。(2012年9月2週)

花を透明にして観る*****

フ ジ

花を薬品で処理して透明にしました。一般的な押し葉標本だと花も平らになってしまいますが、この方法だと立体を保ったまま内部構造を見ることができます。印刷物にすることで結局、平面になってしまいますが、実物をそのまま見れば立体的に花のつくりを理解することができます。



フジの花

- ・ 5 枚の花弁
- ・ 正面に帆船の帆のように立っている大きな花弁が 1 枚（旗弁）。
- ・ 写真ではわかりにくいですが、正面につき出した花弁が 2 組ある。外側が翼弁、内側が竜骨弁。
- ・ 竜骨弁の中に雄しべが透けて見える。
- ・ 雄しべはまっすぐではなく、竜骨弁の下側にそって伸び、先端部が上向きに屈曲する。
- ・ 花バチが旗弁を目印に花に来訪し、竜骨弁に止まると、竜骨弁が重みで下がる。
- ・ 雄しべが露出して、屈曲した先端が虫の体に触れる。

長田谷津のとりたち

自然博物館で行っている鳥類調査の記録から
一押しのとりにちをエピソードと共に紹介します。

カワセミ

カワセミは、主にユーラシア大陸、東南アジア、アフリカ北部に分布する鳥です。日本では、北海道で夏季に、それ以外の地域では年間を通して見ることができます。長田谷津では、飛来する頻度に差はありますが、年間を通して観察することができます。運が良ければ、水に飛び込んで獲物をとらえる瞬間を観察できるかもしれません。長田谷津でのカワセミの獲物は、モツゴなどの小魚やアメリカザリガニです。

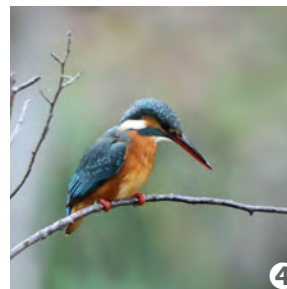
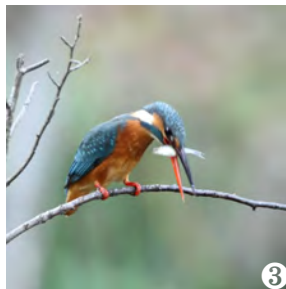
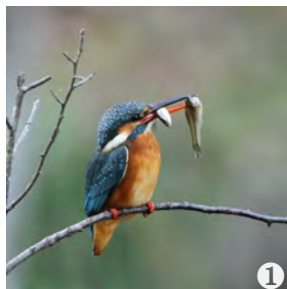
長田谷津でカワセミを見つけることは鳴き声です。姿が見えなくても、自転車のブレーキ音のような「チー—ツ」という鳴き声をたよりに探してみてください。

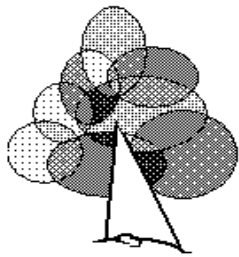


アメリカザリガニを捕らえたカワセミ
2020年3月13日 長田谷津

ダブルキャッチは失敗？

2018年11月27日の出来事です。大池(噴水池)の枝にカワセミがとまっていました。獲物をくわえているようですが、どうも様子がおかしいです。よく見ると、小魚(モツゴ)を2匹くわえています①。一匹はくわえているのですが、もう一匹(外側)は嘴に刺さっています。こんなこともあるのだな…と思いながら、どうするか観察を続けると、まず、嘴に刺さっている方を振り落とすように、落としてしまいました②。さすがに、2匹食べることはできないようです。そして、残った一匹をいつも通り食べるのかと思いきや、なんと2匹目も落としてしまいました③。カワセミはしばらく落とした魚をみるように下を向いていました④。なぜ2匹目も落としてしまったのかは不明ですが、その姿がなんともさみしそうで、思わず笑ってしまいました。





今ある自然を大切に

7月4日、富貴島小学校辺りで、ニイゼミが鳴いていました。まだ数は少ないようです。7月18日梅雨明け。アブラゼミの鳴き声を聞いていませんが、道路にひっくり返っているのを見かけます。7月21日朝6時前、自宅付近でミンミンゼミが鳴きだしました。夕方、自然観察園のホタルを見に行きました。ヒグラシの大合唱です。途中の南大野でクマゼミが鳴いていました。

7月27日、JR市川駅近くの、アイ・リンクタウンの展望施設から北側を眺めま

した。「国府台などの台地の斜面林以外、緑地は少ないな」と思いました。市川では、クロマツは松くい虫で、ナラ枯れでドングリの木が枯れ、住民の世代交代で庭木があった敷地は更地に。都心の再開発や、高層建築の周りでは、新たに木を植え、散歩道や水路がつけられているのを見ると、「在来の、その土地にある植物なら積極的に人工の緑地をつくるのもありかな?」と思いました。今ある自然を、大事にしてほしいと思います。

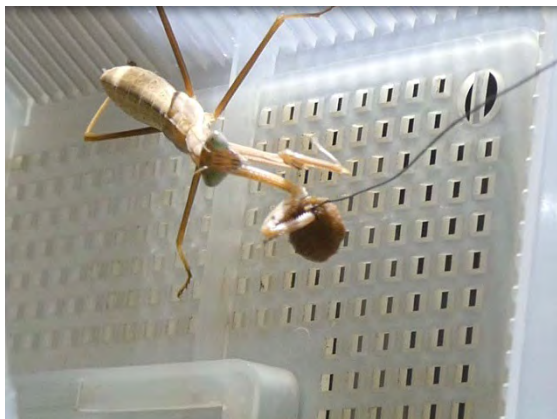
(M. M.)

No.56

展示室 飼育生物の話題

冬に生まれたオオカマキリ

バッタやカマキリ、ナナフシなどの直翅類の卵は、暖房が効いた展示室では冬に孵化してしまうことが多くあります。小さな虫たちはかわいくて、季節外れの冬に展示できるのはうれしいのですが、餌の調達に苦労します。昨冬に孵ってしまったオオカマキリは、1匹ですが冬を越し、8月に至るも健在です。野外のオオカマキリも成虫になり、冬からここまで持ちこたえました。冬は、キャットフィッシュ用の固形餌を与えて乗り切りました。



キャットフィッシュ用の餌を食べるオオカマキリ



◆長田谷津より

- ・観察園ではシジュウカラの巣立ち雛がよく目立ちます(5/30)。親鳥に餌をねだる姿はとても愛らしいです。

稲村優一(自然博物館)

- ・アカメガシワが咲き始めました(6/12)。特に雄花は美しく、頭上からは虫の羽音がたくさん聞こえました。花の少ない時期なので、虫たちにとってはありがたいと思います。

金子謙一(自然博物館)

◆大町動物園内より

- ・エナガの雛が大きくなって、親鳥と変わらない大きさになっていました(5/17)。ただ動きはまだ雛のままで、地面すれすれのササにとまって鳴いている個体もありました。
- ・お昼過ぎに、ニイニイゼミの鳴き声が聞こえてきました(6/25)。今シーズン初めて聞きました。いよいよ暑い夏ですね。

以上 稲村優一

◆大町より

- ・夕暮れ時、車の前を横切ったのはハクビシンでした(6/11)。タヌキやネコに車の前を横切られたことはありますが、ハクビシンが横断したのは初めてです。

◆大野町より

- ・道ばたのフェンスで、スイカズラが咲き出しました(5/6)。スイカズラには、梅雨の雰囲気があります。それなのに連休中に咲き始めました。
- ・小学校の中で子どもたちと自然観察をしました。盛りを過ぎたパンジーのプランターでツマグロヒョウモンの幼虫を見つけました(5/29)。パンジー目線とツマグロヒョウモン目線

のふたつの目線で解説をしました。

以上 金子謙一

◆三番瀬より

- ・渡り途中のアジサシが200羽以上干潟に降りていました(5/3)。時折、何かに驚いては干潟の上空を群れて舞っていました。アジサシは1羽の体が大きいので、非常に見ごたえがあります。

◆江戸川放水路より

- ・ウモレベンケイガニを探しました(6/26)。干潟の横のヨシ原の中にある漂着物の下にいるらしいので、干潟の中でヨシ原が島のようになっている場所のゴミをめくると、ほとんど動かずにじっとしているカニがいました。体も小さく、ごつごつしていて、これは！と思い捕まえて調べると、探していたウモレベンケイガニでした。手の上に乗せても脚をたたんでじっとしており、動きも独特な感じがしました。

以上 稲村優一

- ・右岸の新行徳橋一帯の干潟には、多数のトビハゼがいました(6/26)。干潟は硬く、一般的なトビハゼ生息地とは違う感じですが、それでも生息できるようです。2021年の工事で干潟は狭くなりましたが、重機が走った跡の干潟はトビハゼ好みの環境となり、数が少なかった場所にもトビハゼが戻ってきた印象です。

金子謙一

連休の木々の花は10日ほど前倒しで咲き出しました。梅雨入りは平年より14日遅く、梅雨らしい雨は続かず、6月下旬には熱中症予防がいわれました。

ホームページをご利用ください



自然博物館では、市川市域の自然に関する情報や解説を、ホームページ（webサイト）に掲載しています。展示室のパネルよりも、ホームページの方が情報量は格段に多いです。検索で「市川自然博物館」と入れていただき、下に示した画面が出てくれば、それが当館のホームページのトップです（検索1番目を開くと市川市役所のページに誘導されてしまう場合がありますので、その時は検索2番目を開いてみてください）。



ホームページの内容

- ・ご利用案内
- ・展示紹介、詳しい解説
- ・行事案内
- ・自然観察の記録、オリジナル動画
- ・博物館だより、出版物のご案内



＜行事のご案内＞

長田谷津は、
大町公園の自然観察園の
もともとの呼び名です。

○長田谷津散策会（申し込み不要・荒天中止）

季節の風景や動植物を楽しみながら、
ゆっくりと散策します。

集合：動物園券売所前 午前10時
解散：集合と同じ場所で 午前11時30分

○湿地の環境整備を

お手伝いしていただきませんか
（要問合せ・荒天中止）

学芸員と一緒に環境整備作業を行います。
たとえば……湿地の草刈、枯れ枝のかたづけ、
水路の整備、など

集合：観賞植物園 午前10時
解散：集合と同じ場所で 正午

初参加の方は

- ・・・お電話で博物館までお問合せください。
- 湿地の中に入る作業もありますので作業内容や身支度などについてご説明します。

	長田谷津散策会		湿地環境整備
8月	10日	土曜日	おやすみ
9月	15日	日曜日	29日 日曜日
10月	19日	土曜日	27日 日曜日
11月	17日	日曜日	24日 日曜日
12月	14日	土曜日	22日 日曜日
1月	19日	日曜日	26日 日曜日
2月	15日	土曜日	23日 日曜日
3月	16日	日曜日	23日 日曜日

第37巻 第3号（通巻第213号）

令和6年8月1日 発行

編集・発行/市立市川自然博物館
（市川市教育委員会生涯学習部）

〒272-0801千葉県市川市大町284番地
☎047(339)0477